

6 不登校児童生徒の学校復帰支援

1 事業目的

心理的または情緒的理由により長期欠席している児童生徒に対して、小集団による体験学習及び学力保障を中心に、集団への適応と自立を促し、学校復帰を支援する。

2 実施方針

- (1) 適応教室「やまびこ館」・第2適応教室「学習支援室」を運営する。
- (2) やまびこ館運営委員会を開催する。
- (3) メンタルフレンドによる家庭訪問を実施する。
- (4) 「不登校を考える親のつどい」を開催する。

3 実施内容

(1) 適応教室「やまびこ館」・第2適応教室「学習支援室」の運営

- ① 入館を希望する児童生徒がいる場合は、学級担任・学年主任・生徒指導(不登校)担当と事前に十分に情報交換をするとともに、教育相談・SC・SSWに関わる児童生徒については連携を行う。
- ② こども家庭課、川西こども家庭センター、県立但馬やまびこの郷など関係機関との協力体制を確立し、必要に応じて連携する。
- ③ 適宜、「やまびこ館」指導員による学校訪問を行う。また、「学習支援室」指導員については、チャレンジタイム期間中に学校訪問を行う。
- ④ 通館生の状況について月報、電話連絡、学校訪問等で随時学校に知らせ、家庭訪問等不登校児童生徒への学校からの働きかけを支援する。

(2) メンタルフレンドによる家庭訪問の実施

- ・ 大学等との連携によりメンタルフレンド・やまびこ館指導補助員の登録者を増やし、メンタルフレンド派遣希望者のニーズや適応教室通館生の増加に対応できる体制を整える。

(3) 「不登校を考える親のつどい」および「保護者のための不登校講座」の開催

- ① 不登校で悩む保護者の情報交換の場を年2回(7月頃・12月頃)設定する。
- ② 教育相談で案内するなど、保護者への周知を図る。

(4) やまびこ館運営委員会の開催

- ・ 伊丹市の小・中学校の不登校児童生徒の実態を把握し、学校復帰支援についての研修を行うとともに、適応教室「やまびこ館」、第2適応教室「学習支援室」を管理・運営し、集団による適応指導をとおして学校復帰や社会的自立をさせることを目的とし開催する。(年間3回予定)

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 適応教室入館・通館状況に係る情報交換を、学校、SC、SSW、総合教育センター教育相談員および教育相談担当指導主事等を行うことで、通館生に対する指導を充実させることができた。
学校訪問等による情報交換 44回
SSW等との情報交換 24回
- ② チャレンジタイム期間中、午後から開館することで、学校に行けない通館生の居場所を確保することができた。
- ③ 適応教室「やまびこ館」通館生20人のうち16人、第2適応教室「学習支援室」通室生18人のうち14人が部分登校や別室登校、放課後登校などができている。

- ④ 他課と連携し、不登校の未然防止に向けて、不登校対策ワーキンググループ会議を6回実施し、不登校未然防止、再登校支援等について協議した。

(2) 課題

- ① SC、SSW、教育相談、関係機関等との連携を継続するとともに、適応教室と学校が緊密に連携を行うことで、学校からの家庭訪問等に役立てるなど、学校からの不登校児童生徒への働きかけを促す必要がある。
- ② 通館生の生徒指導上の問題への対応については、学校と連携を密にし、情報共有した上で、生徒への指導および保護者への説明を行い、個々に応じた支援をする必要がある。
- ③ 不登校児童生徒に対して個に応じた支援を充実するために、メンタルフレンド・やまびこ館指導補助員を確保する必要がある。
- ④ 「不登校を考える親のつどい」への参加者が増えるように、研修名や研修内容、参加者への呼びかけ、開始時刻等の見直しを行う必要がある。
- ⑤ やまびこ館運営委員会のあり方について、今後検討していく必要がある。

5 実施状況

(1) 適応教室「やまびこ館」について

① 在籍児童生徒の状況

3月末在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数		
	平成29年度	在籍	男	0	0	0	0	0	0	2	1	5		8	20人
			女	0	0	0	0	0	0	4	2	3		9	
仮入館		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3			
計			0	0	0	0	0	0	7	5	8	20			
平成28年度末	男	0	0	0	0	0	2	1	2	1	6	14人			
	女	0	0	0	0	0	1	0	2	5	8				
	計	0	0	0	0	0	3	1	4	6	14				

② 学校復帰状況

通館生 20人中 16人 (80.0%) が学校復帰 (平成28年度 14人中 9人 (64.3%))

③ 館外学習

日時	場所	通館生参加人数(実数)
7月3日(月)～ 7月7日(金)	県立但馬やまびこの郷 (宿泊体験)	5人
12月20日(水)	海遊館	8人
2月28日(水)	大阪城・大阪歴史博物館	9人

④ 館内学習

- ・学習(午前、午後 各1時間程度)
- ・運動(毎週水曜日午後 女性児童センターで各種運動)
- ・調理実習 学期1回程度

⑤ チャレンジタイム実施状況

	在籍	完全登校	部分登校	適応教室への通館
1学期(4月)	6人	0人	2人	4人
2学期(8～9月)	14人	0人	5人	8人
3学期(1月)	18人	4人	7人	10人

(2) 第2 適応教室「学習支援室」について

① 在籍児童生徒の状況

3月末在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	通館人数	
	平成29年度	在籍	男	0	0	0	0	0	0	0	4	5	9	18人
			女	0	0	0	0	0	1	2	2	1	6	
	仮入館	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	20人	
		女	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2		
	計	0	0	0	1	0	1	2	7	7	18			
平成28年度末	男	0	0	0	0	0	0	1	6	6	13	20人		
	女	0	0	0	0	0	2	2	1	2	7			
	計	0	0	0	0	0	2	3	7	8	20			

② 学校復帰状況

通館生 18 人中 14 人 (77.8%) が学校復帰 (平成 28 年度 18 人中 12 人 (66.7%))

③ チャレンジタイム実施状況

	在籍	完全登校	部分登校	適応教室への通館
1 学期 (4 月)	6 人	3 人	2 人	2 人
2 学期 (8 ~ 9 月)	14 人	1 人	4 人	4 人
3 学期 (1 月)	18 人	3 人	4 人	5 人

(3) やまびこ館運営委員会の開催

委員長 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 吉田 圭吾 教授

副委員長 伊丹市立桜台小学校 花光 潤一 校長

第 1 回 平成29年 7 月 27 日 (木)

内容 ① 入館・申請

新規入館申請者数 「やまびこ館」 9 人 「学習支援室」 6 人

新規入館許可者数 「やまびこ館」 9 人 「学習支援室」 5 人

② 適応教室の状況

③ 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策

第 2 回 平成 29 年 12 月 19 日 (火)

内容 ① 入館・申請

新規入館申請者数 「やまびこ館」 3 人 「学習支援室」 6 人

新規入館許可者数 「やまびこ館」 2 人 「学習支援室」 2 人

② 適応教室の状況

③ 市内の不登校の状況及び今後の不登校対策

(4) メンタルフレンド派遣事業

① 派遣状況

3月在籍人数	学年別 在籍人数		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計	人数
	平成29年度	男	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5	6人
		女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
		計	0	0	1	0	2	1	0	2	0	6	
	平成28年度末	男	0	1	0	2	0	0	1	0	0	4	5人
		女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
計		0	1	0	2	1	0	1	0	0	5		

② 登録メンタルフレンド数 9 人 訪問のべ回数 42 回

(5) 「不登校を考える親のつどい」および「保護者のための不登校講座」の開催

対象 不登校児童生徒等の保護者

講師 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 齊藤 誠一 准教授

講話と質疑・意見交流「不登校児童生徒との関わりをとおして」

不登校を考える親のつどい 平成29年7月18日(火) 参加者3人

保護者のための不登校講座 平成29年12月9日(土) 参加者3人